

小坪漁港活用・活性化に向けた方向性について

令和4年9月

小坪漁港海面利用事業者意見交換会

1. 経緯

令和3年12月16日から、小坪漁港を利用して事業を営んでいる小坪漁業協同組合、株式会社小坪マリナー及び株式会社リビエラリゾート並びに漁港管理者である逗子市による「小坪漁港海面利用事業者意見交換会」を開催し、小坪漁港を取り巻く現状や課題、将来に向けた展望などの意見交換を行った結果を踏まえて小坪漁港活用・活性化に向けた方向性について整理するもの。

2. 小坪の漁業や漁港を取り巻く現状及び課題

小坪漁港とそこで営まれる小坪の漁業は、長い歴史を経てきた伝統と、現代的には大都市圏に近く複数のマリナーを擁する海洋レジャー、文化発信地としての地域特性を兼ね、極めて貴重な社会経済文化的価値を有する。

しかしながら、全国の他の港と同様、漁業従事者の高齢化や魚価低迷、水産資源減少、気候変動と自然災害の激化など、多様な問題が深刻化しており、将来に向けた対策は緊急を要する。また、漁港施設の老朽化も進んでおり、漁港の新たな活用や施設の更新に当たっては、現在の漁港施設の成り立ちに起因する土地や施設等に係る法的な整理も必要となる。

3. 小坪漁港の新たな活用や活性化に向けた方向性

- ・地域の伝統や文化を守り、地元住民と共存できる。
- ・漁師が主役となり、仕事をしやすい環境となる。
- ・古い漁師町とマリナーなどのリゾートエリアとが共存する小坪漁港の特色を生かして、人を呼び込む。
- ・フィッシャーマンズウォーフのように海産物を買ったり、食べたりできる。
- ・使われていない海面や船を活用して、気軽に漁業体験ができる。
- ・海産物を加工したり、さばき方などの体験ができる施設や設備がある。
- ・観光客だけが集まるような街ではなく、地元の人買い物できるなど、地域内で生活が完結するような経済圏の中心となる。

【参考】意見交換会で出た主な意見

1 現状と課題

(1) 漁業

- ・ 漁業だけで生計を立てるのは難しい。兼業している漁師も多い。
- ・ 磯焼けなどによる漁場の変化が著しく漁獲量が減っている。
- ・ 漁獲量が少なくほとんど予約制で売り先が決まっていて売れなくて困ることとはあまりない。むしろ売る魚が獲れないことがある。

(2) 漁港（陸域）

- ・ 漁港施設は建築当初から大幅な更新はされておらず老朽化が進んでいる。
- ・ 台風など高潮の際には船揚げ場から船を避難させなければならない。
- ・ 漁師小屋は漁港施設（船揚げ場）に建っているため、法的な制限がある。

（例）加工販売、飲食提供、増改築など

- ・ 海産物を加工する場所がない。
- ・ 海産物を直接販売する場所がない。
- ・ 来訪者を受け入れるための施設がない。

（例）休憩所、体験施設、更衣所、ロッカー、食堂、駐車場など

(3) 漁港（港内海域）

- ・ 時化でなければ誰かしら年中漁のために漁港内水面を使っている。
- ・ 各漁師小屋前船揚げ場から各々小舟を出し防波堤の間を放射状に往来する。
- ・ 防波堤に付けている船は、船揚げ場から小舟で移動し、乗り換えて船を出している。（浮桟橋があればその必要はない。）
- ・ マンション側の浅いところがあまり使われていない。（船底が当たるため）
- ・ 物揚げ場（岸壁）は大漁のときに船をつけることがある。それ以外は遊漁船が早朝に付けて、午後3時頃に戻るまでは空いている。
- ・ 漁船以外のプレジャーボートは漁師の往来に妨げにならないよう使っている。
- ・ 外部の人を受け入れるのであれば使い方などのルールを明文化する必要がある。

2 将来に向けた展望

(1) 全般

- ・これまでの伝統や根付いた文化も内包しながら地元を大切に、そこに憧れるように人が集まるようになるとよい。
- ・小坪漁港エリアを目指して来てもらえるようなブランド力の向上と魅力の発信をする。
- ・地元の人買い物ができるなど、地域内で生活が完結するような経済圏の中心となっている。

(2) 漁業

- ・獲る漁業から育てる漁業への転換や漁具・漁船の共有化などにより、計画的に漁業経営を行っている。
- ・獲る以外で生計を立てる手段ができている。
(例) 栽培漁業や養殖、六次産業化(加工品販売等)
- ・漁獲量に左右されない漁業体験など観光との組み合わせに取り組んでいる。
(例) 土日は定期的に漁業体験受入、近隣宿泊者への漁業体験パッケージ化
- ・兼業でもできる受入体制を整えて新たな漁師を増やしていく。

(3) 漁港(陸域)

- ・フィッシャーマンズワープの実現を目指す。
- ・漁師が獲ってきた魚を直接売ったり、食べさせたりすることができる。
- ・マリーナエリアに来ている人が漁港にも訪れて買いものや食事ができる。
- ・漁師から直接買うことで付加価値を高める。(さばき方を教えるなど)
- ・買ったり食べたりするだけでなく、さばき方教室などの体験もできる。
- ・物販、飲食、体験などができて、駐車場もある施設があるとよい。

(4) 漁港(港内海域)

- ・使っていないエリアや時間帯を活用して人を呼ぶ取り組みを行っている。
- ・子ども向けマリンアクティビティ体験を提供する。(カヤックの練習など)
- ・レンタルできる船を増やす。
- ・海上タクシー乗り場として活用する。(小坪漁港と逗子海岸をつなぐなど)